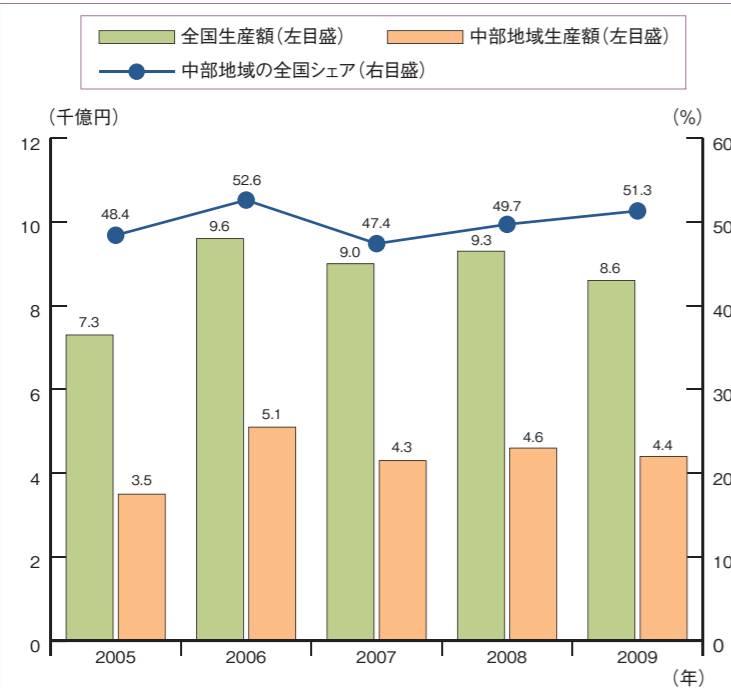


データでみる中部のすがた

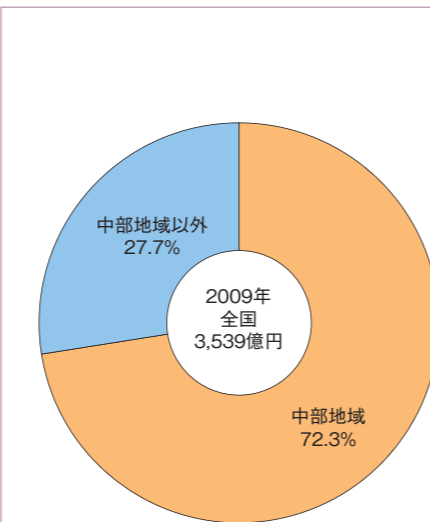
アジアNO.1の集積地を目指す中部地域の航空宇宙関連産業

図表1 わが国と中部地域の航空機・部品生産額(全体)の推移



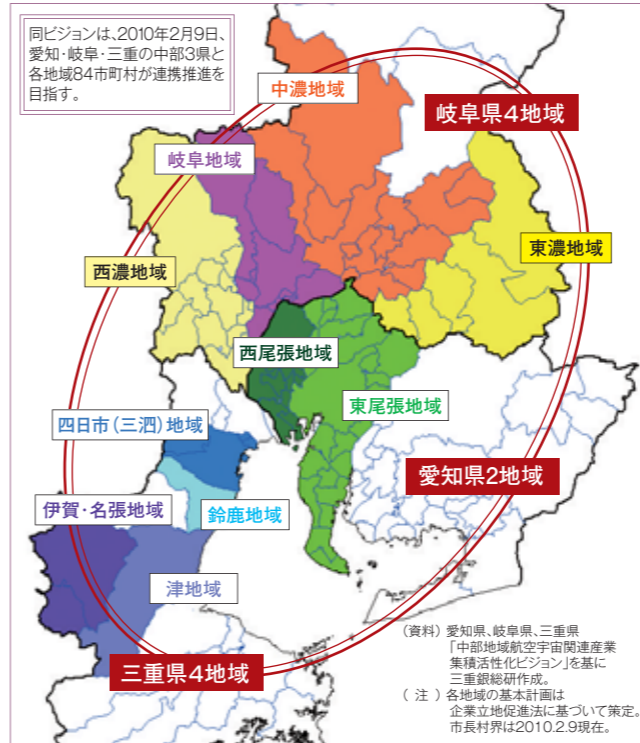
(資料) 経済産業省「生産動態統計」、中部経済産業局「東海・北陸経済情報年報」等

図表2 航空機部品の中中部地域の生産額シェア

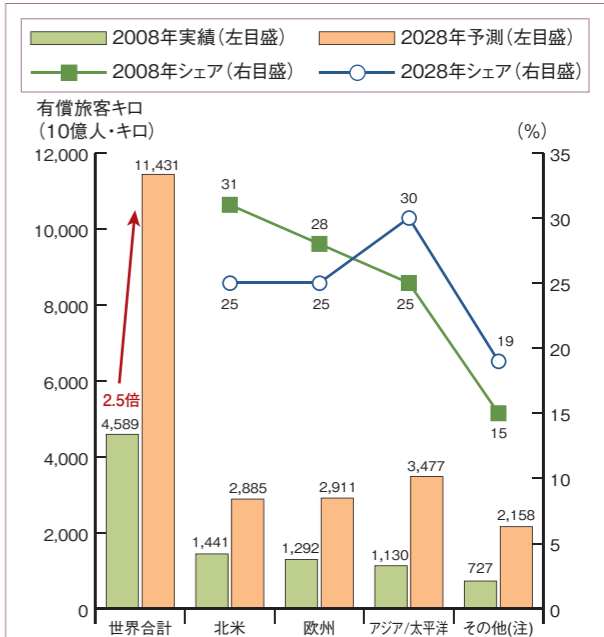


(資料) 経済産業省「生産動態統計」、中部経済産業局「東海・北陸経済情報年報」等

図表3 中部地域航空宇宙関連産業集積活性化ビジョンエリア



図表4 世界の航空旅客輸送量(有償旅客キロ)予測



(資料) (財)日本航空機開発協会「平成20年度民間輸送機に関する調査研究」(平21年3月)を基に三重銀総研作成
(注) その他は、中東、アフリカ、中南米、CIS(独立国家共同体)。

1. 現状

- わが国経済を支える輸送機器産業の中で、自動車産業に次ぐ新たな成長産業分野として、航空宇宙関連産業が注目されています。航空宇宙関連産業は(財)日本航空機開発協会によると、「先端技術を駆使し、知識集約的で波及効果が大きく、産業構造の高度化に有効なため、科学立国を目指す我が国にとって不可欠な産業として」、今後の期待が大きく高まっています。
- 中部経済産業局管内の愛知・岐阜・三重・富山・石川の中部5県の航空機・部品生産額(全体)をみると(図表1)、足元約4千億円から5千億円で推移し、全国の約50%を占めており、とりわけ航空機体部品の生産額を2009年でみると2,559億円と全国の72.3%を占めているなど(図表2)、航空宇宙関連産業は中部地域の基幹産業の1つとして重要な位置を占めています。
- 具体的にみると、中部地域では川上である素材メーカーから、成形、加工、めっき、表面処理等中間段階の加工等を行う川中、機体製造を行う川下まで多様な工程の業種が集積しており、加えて理工系学部を有する多数の大学や航空専門学校等の教育機関、(財)ファインセラミックスセンターなど関係研究機関も立地しており、航空宇宙関連産業の技術の根幹を支える研究・開発インフラも整備されている状況です。

2. 今後の展望

- こうしたなか、中部地域における航空宇宙関連産業が特に集中している愛知、岐阜、三重の中部3県は、2010年2月9日、同産業の更なる集積と高度化を目指して、企業立地促進法に基づく「中部地域航空宇宙関連産業活性化ビジョン」を策定し、広域事業に取り組むことで合意しました(図表3)。
- 同ビジョンでは、その趣旨に基づき、企業立地促進法における東海3県10地域の既存の基本計画を変更することで、広域的な連携を強化し、当地域の航空宇宙産業クラスターの形成を目指していくこととしています。具体的には、①研究開発支援、②市場の拡大、③人材の育成の3項目を柱とした事業を実施することにより、事業環境の基盤整備を推進するとともに、当地域における航空宇宙関連産業の世界シェア拡大とアジアNo. 1の同産業の集積地となることを目指していきます。
- 世界の航空旅客輸送量は、今後アジア地域を中心とした新興国の経済成長に伴い、中小型の航空旅客機の需要拡大が見込まれ、航空機独自の①目的地まで最短距離で結べる、②交通事情の影響が少ない、③高速に移動できる等の特性ともあいまって、2028年には、2008年対比約2.5倍の輸送量が予測されているだけに(図表4)、当地域の航空宇宙関連産業への本格的な取り組み期待は一層高まりましょう。

先浦 宏紀

データでみる
中部のすがた

データでみる
中部のすがた